

特別講演

「ホロコースト教育—アウシュヴィッツ博物館の場合」

中谷剛

アウシュヴィッツ博物館の公認ガイド、中谷剛（なかにたに・たけし）さんの特別講演会「ホロコースト教育—アウシュヴィッツ博物館の場合」が、2021年5月29日に開催されました。オンラインによる特別講演会を日本ロゴセラピスト協会が開くのは、これが初めてでしたが、ポーランドと、ドイツ、日本をつないでお話を、一般参加も含めて約50人が熱心に聞きました。

歴史の経験から、人間は何を学び、どういかしていけるのでしょうか。

以下は、中谷さんのお話の要旨です（まとめ・河原理子）。

こんにちは。こんばんは、でしょうか、日本は夜だと思います。7時間の時差があり、ポーランドはいま午後の1時です。私は、アウシュヴィッツ強制収容所の跡地で、主に日本人の方たちに、その歴史を伝えるガイドの仕事をしています。ポーランドで暮らすようになったのは1991年で、ちょうど今年（2021年）の夏で在留30年になります。そのうち20年余り、アウシュヴィッツで案内をしてきました。

私はいま55歳で、戦争を体験した世代ではありません。妻はポーランド人ですが、妻の家族や親戚にアウシュヴィッツで犠牲になった人はいません。だから、これから話すことは、直接の体験によるものや、犠牲者としての感情的なものは極めて少なく、日本人としてアウシュヴィッツをどう見るかべきか、ということが中心になります。

それに、私は歴史学部の卒業生ではなく、日本の大学で経済を少しかじったくらい。ですから、歴史学者が調べて整理したことの概略を皆さんにお伝えする、というスタンスになります。

ポーランドも新型コロナウイルスで大変でしたが、最近ワクチン接種が進んで、だいぶ規制が緩められました。アウシュヴィッツ博物館も、この5月から、金土日に限って見学を再開したところです。